

特集 論文のセルフチェックと推敲

皆さん、学びあってるか〜い！ そして、やればできるぞー！ さて、前期中間考査が終わると、3年生の皆さんはいよいよ1回目の論文提出ですね。これまで一生懸命頑張ってきた課題研究ですから、是非、立派な論文に仕上げたいと願っていますよ。

今回は、論文のセルフチェックのポイントについて解説します。併せて1回目の論文提出についての連絡事項をお伝えします。「知らなかった！」ということのないように、よく読んで準備を進めてください。



1 セルフチェックのやり方

配布されている「課題研究論文セルフチェックシート」を使っておこないます。みんなで項目ひとつひとつを確認し、「Check」欄に☑を記入します。チェック項目の要求を満たしていない場合は、可能な限り修正を試みましょう。

自分たちのチェックが終わったら、ゼミ担当の先生にもチェックしてもらいましょう。一通りチェックが済んだら、「論文提出用表紙」と「セルフチェックシート」と論文をセットにしてSSH推進室の担当者（前川先生）に提出します。

2 セルフチェックのポイント①

セルフチェックは「基本的事項」と「論文の論理性に関わる事項」に分けておこないます。ポイント①は、「基本的事項」です。「基本的事項」のチェック項目を満たさない論文の評価はとて低くなります。まずは、ここをしっかり確認することが必要です！

以下に特に注意して欲しいことを列挙します。

- A) 論文の書式を守ってください。書式は、「SS 理数探究 課題研究論文の書き方について」（4月のオリエンテーション資料）に記されています。
- B) 余白は上下左右 20mm です。余白の設定方法は各自で調べてください。
- C) 論文は左右 2 段組みです。段組みの設定方法は各自で調べてください。
- D) キーワードを必ず挙げてください。（最低 3 ワード）
- E) 図表には番号とキャプションを必ず付けます。番号とキャプションは、表なら上側に、写真や図なら下側に付けます。
- F) 引用・参考文献リストの記載ルールを確認してください。ルール通りでない記載は認められません。特に、Web ページについて記載する場合は、必ずページタイトルを書きます。URL だけのものは不可です。また、閲覧日も明記（研究ノートや日誌で確認）します。ページタイトルを書くのは検索しやすくするためです。閲覧日を明記するのは、Web の場合、情報が更新される可能性があるからです。

自分でできるよになっ
ってね！

3 セルフチェックのポイント②

ポイント②は「論文の論理性に関わる事項」のパラグラフライティングに関する項目です。パラグラフライティングの詳細については、本紙「探究の道標」の No.2 を確認してください。

特にチェックして欲しいのは、各パラグラフの最初にトピックセンテンスが書かれているかどうかです。昨年度の先輩方の論文は、トピックセンテンスが書かれていないものがほとんどでした。トピックセンテンスがないと、論文はとて読みにくいものになります。

「まずはトピックセンテンスを書く」ということを強く意識して欲しいものです。そのうえで丁寧な説明を展開していきます。トピックセンテンスだけでは正確な説明はできないからです。研究で得たデータなどの根拠を明確に示すなどして丁寧な説明をおこなってください。

そしてパラグラフの最後にはまとめを短く書きます。詳細な説明を展開しているうちに、読み手は混乱してしまうかもしれません。まとめを書くことによって読み手を上手にリードします。これは、議論が脱線しないように書き手自身が文脈をコントロールすることにもなります。

みなさんの論文はどのように書かれていますか？ よく見直してみましよう。

4 セルフチェックのポイント③

最後のポイントも「論文の論理性に関わる事項」です。写真や図表と引用文の扱い方について説明しておこうと思います。

写真や図表、引用文は、本文での説明に必要なものだけを論文中で扱います。説明に関わらないものは掲載してはいけません。情報として不必要だからです。論文は必要な情報だけで構成します。

生徒の書いた論文でよく見かけるのは、掲載している写真等についての説明や解釈、考察が、まったく本文に書かれていない論文です。写真や図表は掲載するだけでいいと思いませんか？読み手は、説明されなければその写真のどこに注目すればいいのか、その写真を掲載することによって筆者が何を表現したいのかを理解することができません。説明が無ければ、読み手は勝手に理解しようとして、その理解は、多くの場合、筆者の表現したかったこととは違うのです。これでは論文として正確さに欠けることになってしまいます。

昨年度は、論文にインパクトを与えたかったのか、それとも書くことがなくてスペースを埋めたかったのかわかりませんが、装飾用のイラストを掲載している論文もありました。論外です。原稿チェックの段階で、すべて削除してもらいました。

引用文も同様です。引用しっぱなしではいけません。引用文について、自分がどんな意見を持っているのか、何を言おうとしてその文章を引用したのか、などをしっかり説明しないと、読み手は勝手な解釈をしてしまうことになるのです。

私は大学院生の時に、ゼミの教授から「引用する文章の量は最小限にしてください。引用したら引用文の3倍以上の説明を書きなさい」と指導されました。当然のことだと思います。引用の目的と、引用文の内容の解説、さらに自分の見解を書けば、文章の量はすぐに3倍以上になります。ならないということは、説明しなければならぬことが何か欠落しているということなのです。

なお、引用はルールを守って行いましょう。他人の文章を自分の文章であるかのように書くことを「剽窃（ひょうせつ）」と言います。剽窃は学問の世界では犯罪行為です。

自分たちの表現したいこと、伝えたいことが正確に伝わるような論文になっているか、良く見直し、しっかり推敲して欲しいものです。

5 論文提出に関する注意事項

- 1回目の提出は確定稿でなくてもかまいません。期限を守って提出してください。
- 紙で提出してもらいます。印刷は各ゼミで行ってください。
- 提出は2部です。1部には「論文提出用表紙」をつけてください。
- 提出論文は、各部左上をホチキス止めしてください。
- セルフチェックシートも提出してください。
- 提出前に、必ずゼミ担当の先生のチェックを受けてください。

セルフチェックで論文の質を高めよう！
研究成果をたくさんの人に正確に伝えるために！